

三月十九日電信ヲ以テ一應御答及置候處尙又頃日外務省ニ於テ主務ノ人ニ就キ其模様相探リ候處右ハ尙伯林ニ於テ英米其他ノ國々ト協議最中ナリ不遠シテ程能ク落着スル事ト思考ス該件ハ英國最モ關係多キカ故ニ隨テ多少見込モ可有之様子ナリ尙伊政府ニ於テハ固ヨリ異議無之云々ト相答ヘ候ニ付此上トモ尙宜シク斡旋好結果ニ運ヒ候様依頼致置候此段申進候也

第六節 對 澳 交 渉

四一七 明治十三年一月二十日 本間駐澳代理公使ヨリ 井上外務卿宛

條約改正ニ付澳洪國ノ態度報告ノ件

十三年別信 第貳號 三月十五日到

條約重修一件につきては爾後懈怠なく澳洪政府に向て確答を要求致し候得共日本へ派出せし公使未だ到着無之又は英國獨國へ打合せ置き候も未だ其方向申越無之など毎度回答有之兎角延遷に流れ候然るに澳洪公使は現に東京へ到着の事故又々去る十二日確答を要し候處貿易卿の替り等にて該

明治十三年一月二十日

在維也納

二等書記官 本間 清雄

外務卿井上馨殿

四一八 明治十三年五月十四日 本間駐澳代理公使ヨリ 井上外務卿宛

條約改正ニ付澳洪ノ態度報告ノ件

十三年別信 第六號 六月二十八日到

本年別信第二號一月二十日附以て申上置候通り當澳洪政府は條約改正の義につきては決して故障なく該件に付き會議を被開候節は猶豫なく在東京の澳洪公使へ開議の命令差送り可申旨外務大輔バロンシユウエーケル氏より政府の名を以て被申聞候につき先づ其分丈けにても公翰を以て回答として被申越度旨申談候處其後澳洪政府は既に夫々手筈も運ひ居り候事故近日確乎たる返答可致旨申聞候然る所同人義は突然休暇を以て退省の事と相成り候につき其後何に等の手續きに相成り居り候哉更に該省へ承り合せ候處外務卿よりの書簡に日本政府要望被致候條約改正の義は約書上明揭有之候へ者此要求の正當なる疑を容れず乍然日本政府より

二十年六月廿五日

在 伊

特命全權公使子 田中 不二麿印

外務大臣伯 井上 馨殿

註 1及2二月十三日電信及三月十九日電信見當ラス

件上澳洪兩政府の協議今以整ひ兼候次第故今日確答を致し候譯けには至り兼候得共該件の義につきて澳洪政府は専ら平寧を主とし決して故障異議等を申立す然し日本と往來最も多き英獨兩國を離れ候事に至り兼候故右兩國の方向に任せ右兩國より該件の會議へ委員派出の事に至り候は、澳洪政府も無躊躇在東京の澳洪公使へ其會議へ參與を可命候此義は預め確答出來候旨外務大輔貿易課ベロン、シコウエーゲル氏より回答有之候

右御含迄に申上度如此御座候敬具

要需被致候主點は輸入税を被増候義に候へは貿易上大に感觸を來す義に候得は透底外國に就中英國獨國等の方向に隨て所置せざるを得ざる情實に有之且又此頃日本政府は此條約改正の模様を被替現今別主意を以て御取調へ中と承り候就ては只今の處にては外に御返事の致し方無之につき其模様替の御主意を以て更に御照會有之次第速に澳洪辦理公使へ東京に於て御開設可相成所の萬國會議に參與可致様命令可致云々の意にて申來り候

此條約改正模様替への義につきては先達て外務省にて始めて承り候につき速に鯨島公使へ問合せ候處同公使も此義は只傳承迄にて別に訓令等も領手せざる旨回答有之候故不得止何處迄も最初の訓令に據り掛合來候不都合の至に候定て井田公使には新規の訓令を帶携被致候事と被存候故何にも夫れ迄は見合せ置き可申候

明治十三年五月十四日

在維也納

臨時代理公使 本間 清雄

外務卿井上馨殿

四一九 明治三十九年九月十九日 井上外務卿ヨリ 井田駐澳公使宛

條約改正ノ目的變更説ニ付辯明方訓令ノ件

別信案 第八號

本間臨時代理公使より別信第六號を以て我政府條約改正の目的を變更せし旨澳洪政府に於て思考するに付新規の訓令下付迄は談判見合せ候云々申越候處右改正の目的變更との事は全く在東京或る一二の公使臆測に出て候儀にて我政府に於ては決して右様の儀は無之英國に於ても同様の思想有之候故去る七月中別紙寫之通り森公使へ通信に及候間右書類篤と御熟閱の上我改正目的に關し任國政府に於て疑點有之候節は森公使へ通信の旨趣に基き事理明晰に御辯明可被成候此段申進候也

註 別紙省略ス一八四文書十三年七月八日附在英森公使宛 往信參照

四二〇 明治十四年二月十一日 井田駐澳公使ヨリ 井上外務卿宛

四二一 明治十七年五月二日 上野駐澳公使ヨリ 井上外務卿宛

我提案ニ對スル回答要求ノ件

附屬書一 十七年四月五日到外務卿訓電

二 十七年四月二十六日澳國外務卿宛上野公使

往翰

三 十七年四月二十八日附澳國外務卿代理來翰

譯文

四 十七年四月二十八日發上野公使來電

十七年 機密信第五號 六月十三日到

條約修正事件につき澳洪政府より公然の回答可有之且其在東京公使へ訓令可差立様請求可致趣別紙甲號複譯寫の通り暗號電信以て來命の旨拜承則外務卿カルノキー氏へ面會の上一通り申述置更に乙號寫の通り書簡を以て及照會候處丙號譯の通り回答有之候につき不取敢丁號原信寫の通り暗號電信を以て及御報知置候就ては該政府は今便以て前述公然の回答及訓令共其公使へ向け差出し候事と被存候此段別紙四葉相添へ申進候也

明治十七年五月二日

條約重修ニ付澳洪國政府ノ態度報告ノ件

十四年機密信 第三號

條約重修の義につき逐號御來示の旨拜承當外務卿へ詳悉致念仕候處諸書類は該省に於て一通り取調の上澳洪兩貿易省へ廻置候由猶此頃外務卿へ右事件何等の點に相達候哉問合せ候處該政府は無遲滯該件に従事可致候へ共其筋の取調未だ全く濟不申且又同盟國へ打合せ致置候義につきても亦返詞無之右等の手續相調次第重修委員を命する場合に至り可申旨に御座候

前條の通に御座候得は當國は兼て之か目的に不相達義につき猶此上致念致候様の義は透底無詮様被存候間先づ差控候方可然哉に被存候
一昨日當地商法協會の者より承り候處該協會は該件の義につき下問を受け専ら取調中の由に御座候
右申進度如此御座候也

明治十四年二月十一日

特命全權公使 井田 讓

外務卿井上馨殿

(追啓省略)

特命全權公使 上野 景範

外務卿井上馨殿

附屬書一

甲號 十七年四月五日到外務卿訓電

From Inouye to Wooyeno.

Ask the Government to which you are accredited to give us official reply to our proposal regarding treaty revision and to issue instructions to their Minister as soon as possible, broader and more general in its scope the better.

English Minister has already received full powers.

Received, April 4th 1884.

附屬書二

乙號 十七年四月二十六日澳國外務卿宛上野公使往翰

以書簡致啓上候然に澳地利洪葛利國と日本國との際に現存する條約修正の事件につき曾て我政府より提出いたし置候議問に對し可成速に公然の御回答有之様致度且又該件に付在東京貴國公使へ訓令御交付相成様致度尤も其訓令は權限寬廣にして且一般なる程所希望候

右は我政府の命令に因り及御照會候條可然御取扱被下度此

段及御依頼候敬具

明治十七年四月廿六日

特命全權公使 上野 景範手記

澳澳國外務卿

コント、カルノキー閣下

附屬書三

丙號 十七年四月二十八日附澳國外務卿代理來翰譯文

本月廿六日附貴翰落手いたし候然は條約改正の義につき充分の訓令は週内の郵便を以て在東京我公使へ可致交付候此段回答申進候敬具

維也納 千八百八十四年四月廿八日

外務卿に代り

ツエゲニー手記

日本帝國特命全權公使

從四位上野景範閣下

附屬書四

丁號 十七年四月二十八日發上野公使來電

From Wooyeno to Inouye.

Austrian Government will send full power to the

以書簡致啓上候然は我政府の命に依り條約改正事件の覺書寫別紙の通り差進候

右は曾て英國政府より提出いたし候覺書の問題に對し我政府より回答いたし候ものに有之其寫は定約別國へも差出候義につき何卒貴政府於ても御同意被下様御取計被下度及御依頼候

別紙中我政府企望する廉々貴政府の賛成する所と相成り貴我兩政府の交誼をして惟親密ならしめ貴我兩國人民の往來をして益繁盛ならしむる好結果を奏する事不堪希望候敬具

明治十七年十月廿一日

日本特命全權公使 上野 景範自記

澳地利洪葛利帝國外務卿

コント、カルノキー閣下

附屬書三

乙號 十七年十一月三十日附本間代理公使宛澳國外務卿代理來翰

Vienne, le 30 Novembre 1884.

Monsieur le Chargé d'Affaires,

Le Ministère Impérial et Royal des Affaires Etrangères a eu l'honneur de recevoir la Note et le

Minister in Tokio (in a) few days.

April 28th 1884.

四二二 明治七年三月二日

本間駐澳代理公使ヨリ
吉田外務大輔宛

我覺書ニ對スル回答要求ノ件

附屬書一 十七年十月三十一日附澳國外務卿宛上野公使往翰

使往翰

二 十七年十一月三十日附本間代理公使宛澳國外務卿代理來翰

十七年機密 第十四號

十八年一月二十四日到

條約改正事件につき別紙甲號寫の通り當國政府へ及照會候處別紙乙號の通り回答有之候此段不取敢申進度如此御座候敬具

明治十七年十二月十二日

臨時代理公使 本間 清雄

外務卿代理

外務大輔吉田清成殿

附屬書一

甲號 十七年十月三十一日附澳國外務卿宛上野公使往翰

Mémoire, que vous avez bien voulu, Monsieur le Chargé d'Affaires, lui transmettre le 21 octobre dernier.

Ce document contient les dernières propositions faites par le Gouvernement Impérial du Japon à l'égard de la révision des traités.

Le Gouvernement de Sa Majesté Impériale et Royal Apostolique avait déjà connaissance de ce document par un report du Ministre Impérial et Royal à Tokio.

Ayant examiné, avec tout l'intérêt qu'elles méritent, les nouvelles résolutions prises par le Gouvernement du Japon à la suite des négociations préalables entamées à Tokio, le Ministère Impérial et Royal des Affaires Etrangères pu munit le Comte Zaluski d'instructions qui lui permettant de considérer la situation créée le Gouvernement Impérial comme propre à une entente.

Agréé, Monsieur le Chargé d'Affaires, les assurances de ma considération très distinguée.

Pour le Ministre des Affaires Etrangères.
sig. Azogyenji